

栃木県立盲学校教諭 市田敬一先生との対談②
一目の不自由な方とコミュニケーションを図るには—

開倫塾

塾長 林 明夫

林 : おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今日の「開倫塾の時間」は、先週に引き続き、ゲストの先生をお迎えしてお話をうかがいます。栃木県立盲学校の市田敬一先生です。市田先生、よろしくお願いいたします。

市田 : よろしくお願いいいたします。

林 : 先週は、栃木県立盲学校では皆さんがどんな勉強をなさっているかをお聞きしました。パソコンやスマホまで自由に使っていて素晴らしいなと思いました。今日は、目の不自由な方とコミュニケーションを図るにはどんなことに気をつけたらよいか教えていただきたいと思います。勉強が足りなくてお聞きするのが申し訳ないのですが、目の不自由な方とコミュニケーションをとるときにはどんなことに気をつけたらよいでしょうか。

市田 : 私たちは当然目が見えませんが、言葉や音がないと確認できないということがあります。見える人同士だと目で合図したり会釈したりして通り過ぎることがよくあると思うのですが、私たちのように目が不自由な者には必ず声を出して挨拶していただけるとすごく助かります。できれば最初に挨拶したあとに「何々です」と名前をいっていただけると、「今は誰さんが通ったんだな」とか「林先生」だとかかがわかります。

林 : 例えば、「市田先生、おはようございます。林です」といえばよいのですね。

市田 : そうですね。慣れてくると声で誰かということが判断できるのですが、人がたくさんいる中で挨拶されたり普段あまり話さない人に話しかけられたりするときなどには、最初に名前をいっていただかないと誰だかわからないことがあります。

林 : お会いしたら、必ず自分の名前をいわせていただくのがよいということですね。

市田 : 私たちが一般の方と関わる時は、白杖で歩いているときに声をかけられたり、手引きをしてもらったりすることが多いです。最近は減ったのですが、昔は何も言わずに腕を引っ張られたりしました。これは目の見えない人には不安ですね。やはり声をかけるときには、「何かお手伝いすることはありますか」と聞いていただくと一番助かります。

林 : 白杖とは、白い杖のことですね。

市田 : はい、そうです。

林 : 白い杖で歩いている人には、「何かお手伝いすることはありますか」とお聞きするとよいのですね。

市田：そうですね。また、歩道や駅のプラットホームなどには点字ブロックという黄色い線があります。昔は駅などでは「黄色い線の内側に立ってください」という放送がよく流れていましたが、最近は「点字ブロックの内側に立ってお待ちください」といっていただけるようになりました。そのため、一般の方も黄色い線は点字ブロックだということがだいぶわかってきたと思うのですが、まだまだ点字ブロックに対する理解が薄いところもあります。点字ブロックの上に自転車が置いてあったり、ものが置いてあったり、場合によっては車が置いてあったりということがあり、そこを通る視覚障がい者の妨げになっています。

林：点字ブロックの上にはものを置かない・駐車しないということですね。

市田：そうですね。

林：そのほかにありますか。

市田：手引きの仕方ですね。「どこに行きたいのですか」と声をかけてくださった方に、「駅員さんのところへお願いします」というと、その方はどのように連れて行けばよいのだろうと困ってしまうことがあると思います。一般的には肘をお借りして、私たちはその肘をつかんで手引きされることが多いです。身長が低い方であれば、肩などをお借りすることもあります。

林：私たちは肘につかまっただけでご案内するということですね。ほかにありますか。

市田：目の不自由な者は、歩行で困ることが多いです。いつも歩いている場所は、安心して歩けます。しかし、例えば災害などで普段とは違う状況になってしまうと、それが私たちには一切わからず安心して歩けません。ですから、台風でいつもの道が通行止めになっている・何かの事情で点字ブロックの上が工事中になっているといった場所に気付いた方がおられましたら、それを伝えていただけますと、私たちは安心して安全に歩行できると思います。

林：いつもと違う状況になったときは、それを教えてもらいたいということですね。最後に、これぞということをお話ください。

市田：障がい者、中でも視覚障がい者が少ないということで、一般の方々はやっと話しにくいとか自分たちとは違うと思いがちですが、私たちも皆さんと同じ人間です。ただ目が見えないだけなので、気軽に話しかけていただき、お互いに助け合って生きていければと思っています。

林：いろいろなことを教えていただき、ありがとうございました。今日は、栃木県立盲学校の市田先生から目の不自由な方とコミュニケーションを図るにはどうしたらよいかということをも具体的に教えていただきました。市田先生にはこれからも大いに活躍していただき、いろいろなことをまた教えていただければと思います。ありがとうございました。

市田：ありがとうございました。